

平成16年度

『いじめ Stop Forever』 いじめ撲滅運動 4年目の取り組み ～保護者を交えてのディスカッション～

足利市立西中学校 久保雅英

1 はじめに

本校では、いじめのない学校づくりは、学校教育における全活動の基盤を確立する上で最重要という考えのもと、生徒会を中心に『いじめ Stop Forever』のスローガンを掲げ、いじめ撲滅運動に取り組み、今年度で4年目になる。

これまでの3年間の成果としては、教育活動の随所で「いじめはいけない、ひとりぼっちの子を作らない」という生徒間の雰囲気が見られるようになったり、いじめられている生徒本人からの相談、また、いじめの被害に遭っている生徒を思いやり、第三者の生徒が教師側に伝えてくれるなど、いじめを放置しないという環境も整いつつある。一人一人のいじめ撲滅に対する認識が高まり、いじめられているという数は確実に減少している。

また、ディスカッション活動を通して、参加者全員が自分の意見・考えを無理なく述べられるようになり、全体としての活動も活性化してきている。また、それぞれのリーダー活躍の場ももて、各自の創意工夫を生かしてそれぞれの形式で自治的なディスカッション活動が実践できるようになってきている。

(詳細は『足利市立教育研究所発行 平成15年度教育研究所研究記録集』

「西中学校におけるいじめ撲滅運動3年間の取り組み」を参照)

2 本年度のテーマ設定の理由

この3年間の成果をより充実させていくため、学級・学年の枠を超えたディスカッションのグループ構成が必要と考え、注目したのが町内別のグループ構成である。

小学生までは町内での活動(登下校・町内会・夏祭り・野球・ソフト等)も盛んであり異学年間の交流や地域の方との交流も自然であった。しかし、中学校の学校生活は学級・学年での活動が中心になり、さらに休日は部活動等があるため、生徒たちは決まった友達と多くの時間を過ごすことが多く、小学生までのような機会が激減する。そこで、ディスカッションのグループを町内毎にし、生活の拠点でもある地域にもう一度目を向けさせたいと考えた。

そして、地域の方(今回は保護者)に実際にディスカッションに参加・参観していただき、地域の方がどんな意見や願いを持っているのかを把握することにより、今後、いじめ撲滅のために自分たちには何ができるかを考えさせたいというねらいから、本年度のテーマを設定した。

3 研究の実際

(1) 事前準備から実施まで

① 計画

6月25日(金) PTA本部役員、学年役員 参加依頼文書 発送

6月30日(水) 生徒集会 全校生徒に連絡・職員会議

7月 2日(金) 生徒会専門委員会(西中タイム)

7月 5日(月) 地区別ディスカッション 「司会者研修会Ⅰ」
・趣旨の説明、予定の説明

7月 8日(木) 地区別ディスカッション 「司会者研修会Ⅱ」
・ディスカッションの進め方について

7月 9日(金) 地区別ディスカッション(西中タイム)

7月14日(水) 生徒集会 提案発表

7月16日(金) 保護者会 提案発表

② 担当

	班名	人数	担当教師名	活動場所	司会生徒名	参加保護者名
1	五十部 1	36	椎名・山中	1-1		Aさん・Nさん
2	五十部 2	36	永島・石村	1-2		Hさん・Yさん
3	五十部 3	36	大平・佐藤	1-3		Nさん・Kさん
~~~~~						
14	山下 3	36	手塚・柏瀬	3-4		Nさん・Kさん
15	山下 4	36	高澤・原田	3-5		Sさん・Aさん
16	山下 5	36	大澤・石井仁	3-6		Yさん・Kさん
17	スマイル		浅海雅・橋本・掛川	スマイル		

## ③ 司会者研修会資料(1班6グループ、16班 96名の司会者)

### 地区別いじめ撲滅ディスカッション 司会者マニュアル

足利西中生徒会

#### 1 打ち合わせ

まずは担当の先生がいらっしゃったら、司会者6人と先生でディスカッションの流れについて簡単に打ち合わせして下さい。  
(保護者の方がいる班は一緒に入ってもらおう)

#### 2 グループ分け

担当の先生を中心にグループ分けします。司会者の方から「こういうグループの方がやりやすい」「意見が出やすい」等の案があったら積極的に担当の先生に提案して下さい。

*6人で1グループですが、状況によって5人、7人でもかまいません。

*転入や引っ越し等の理由で、前からその地区にいなかった生徒もどこかの班に入ります。

グループができあがったら、率先してグループに入っていきますよう。



そして、司会者自ら元気に自己紹介しましょう。

「今日の司会をすることになりました、〇年〇組の〇〇〇〇です。協力をして下さい、よろしくお願いします。」

* 担当の先生から今回のディスカッションについて、班全員に説明があります。

### 3 ディスカッション開始

いよいよディスカッションに入ります。

前半

「早速ですが、ディスカッションをはじめていきます。今回のテーマは、地域からの働きかけ、ということです。学級・学年や部活動が異なっても、近くに住む仲間として、いじめを起こさせない（いじめを出さない雰囲気）方法、あるいは起きているいじめを解決させていく方法を考えていきたいと思います。」

（途中省略）

中間

* 全員が意見を考え終えたようであれば、あるいは担当の先生から話し合いに移るよう指示があったら

「それでは、一人ずつ意見を発表してもらいます。その意見の説明も簡単にして下さい。そして、その意見が『すぐに自分たちで実行に移せるものなのか』・『地域の協力が必要なのか』・『できない』のかを考えていきましょう。3年生からお願いします。」

* 発表することが苦手な人もいます。言いつらそうだったら、紙だけはるだけでもいいです。

後半

* 全員が意見を言い終わり、台紙に意見がはれたらまとめに入ります。「それでは、全員の意見が出ましたので、これからまとめに入りたいと思います。出された意見の中から、このグループの提案ということで3つにまとめていきます。どれにしていくか意見がある人は発表して下さい。」



* 少し、時間が経っても意見が出てこないようであれば、誰かを指名して下さい。意見を言ってくれそうな人がいいですね。

「〇〇君〇〇さん、どうですか」

* それでも、どうしても意見が出てこないで、話し合いがストップしてしまうようであれば、司会者自らの意見を提案して下さい。そして、その後、誰かを指名し、提案してもらいましょう。

* 出てきた意見をもとに、3つにまとめます。決め方は挙手でいいです。

「では、このグループからの提案は、1 ~、2 ~、3 ~の3つとします。」

「これで、話し合いを終わりにします。ご協力ありがとうございました。」

「この後、先生からお話があります。」

* 西中初の試みです。今回のディスカッションを成功させる重要なポイントは司会者の皆さんの頑張りで、よろしくお願いします。

## (2) 実施

### ① 保護者当日案内

本日はお忙しい中、ご参観いただきましてありがとうございます。

下記の点を参考にされ、ご参観していただけたらと思います。

・ディスカッションのスタートの段階で、担当教師と司会者生徒の簡単な打ち合わせがそれぞれの教室でありますので、よろしければお聞きになって下さい。

・ディスカッション中は、ご参観だけでも結構ですが、各班を回りながら生徒たちに声をかけていただけると大変助かります。

・最後のまとめの段階で、全体的な感想や意見を言っていただけると、今回のディスカッションの成果が上がるのが期待されます。お願いします。

ディスカッション終了後、お時間の都合のつく方は、一度2階多目的室にお集まり下さい。  
今回のディスカッションの企画や生徒の様子を聞かせてください。

② 展開

地域の一員として できること	
できること	できないこと
私たちの3つの提案	



区	教師の指導・発問・助言等	時	生徒の活動等
導入	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的の確認</li> <li>・グルーピング</li> </ul> 例：名簿の上から ：学年別 ：男女別	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・担当教師より、ディスカッションの目的を聞く。</li> <li>・進んで、グルーピングに参加する。 (全体)</li> </ul>
展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループでの話し合い</li> </ul> ★「西中からいじめをなくすために、地域としては、何をすべきか考えてください。一人3つの提案をこの紙にまず書いてください。どんなことでもいいです。ただし、相談はせずに書いてください。」(生徒司会) 1枚に1意見 机間指導により書けない生徒に声をかけ、1つでも書けるよう支援する。	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各自付箋用紙に自分の提案を書く</li> <li>・一人3枚、ただし無理な場合には1枚だけでも書けると良い。 (個人)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループ内での意見交換</li> <li>・一人一つずつで、回した方が良い。</li> <li>・発表された意見に対し、模造紙の「できる」「できない」に付箋を貼らせる。</li> </ul>	13	<ul style="list-style-type: none"> <li>・司会者を中心に一人ずつ意見を読み上げる。</li> <li>・他の者は意見に対して「できる」「できない」を判断し、できれば、コメントを出し合えるとよい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの3つの提案をまとめさせる。</li> <li>「できる」に貼られた付箋から3つを選ばせる。</li> <li>★「いじめをなくすために、これなら実行に移せると思うものをグループの提案として3つ選び書き出してください。」</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループの3つの提案を選び、模造紙にまとめる。</li> </ul>
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループごとに3つの提案を発表させる。</li> <li>特に教師側からのコメントはいらない。</li> <li>班としての提案を全体の中から選ばせる。 ：3つ程度</li> <li>話し合いの様子等、生徒がいじめ撲滅に対して真剣に考えられたことをほめ、提案を実行に移せるよう励ます。</li> </ul>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>司会者が模造紙を黒板に貼り、提案を読み上げる。 (時間があまりないので読み上げだけ)</li> <li>挙手などでクラスとしての提案を選ぶ。</li> <li>教師の話聞く。</li> </ul>

### ③ 参観された保護者の方から出された感想・意見（22名参加）

- *生徒が思っている以上に私たち（地域の方たち）を意識していることがわかった。
- *話し合いも顔なじみの生徒ばかりだったので、私たちからも気軽に声もかけられたし、意見も言えた。
- *3年生がすごくしっかりしていたので、びっくりした。
- *司会者が話し合いを盛り上げのがうまかった。*みんな一生懸命やっていた。
- *こういう機会（今回の地域ごとでもいいし、学級でも、なんでもいい）を通して、「いじめをしていることが悪い」、「いじめをしていることが恥ずかしい」と感じられるようになってほしい。
- *地域の行事にもっと参加したいのでは・・・。（参加してもらいたい）しかし、

- ・いきたくても中学生になったから参加できないという雰囲気
- ・部活動が最優先になっている。

 地域の運動会の時には、西中全体で部活動を中止にしてくれた。結果、中学生も会場に来て、参加し大変盛り上がった。

お互い（地域・中学校）が参加しやすい環境をつくっていくことが大切

## 4 研究の成果及び今後の課題

### (1) 研究の成果

#### ① ディスカッションの拡大・地域との連携

小学校の頃はよく話をしたり遊んでいた近所同士の生徒でも、中学校に来てからは、（特に学年が違おうと）なかなかゆっくり話す機会もなかったが、今回の町内別のグループわけが、良い機会となった。穏やかな雰囲気の中で始まったディスカッションとなり、多くの建設的な意見が出てきた。それをもとに12月より学級を中心に新たな実践が始まっている。

また、各班に2名以上の保護者の方に参観・参加していただくことにより、地域の方々がどんな思い

で生徒たちを見守ってくれているのか伝わった。そして、保護者の方々も生徒の実態をみたり、本音を聞いたりする絶好の機会となり、それぞれプラス効果をもたらされた。

## ② リーダー育成

生徒会本部役員、2・3年生の学級長・副学級長、各部活動の部長、3年有志を司会者に指名し（9名）、2回の「司会者講習会」を開催した。今回の趣旨やディスカッションの進め方を学んでいく中で、自覚を持って行動できるようになった。

## (2) 今後の課題

### ① 町内別グループの充実・活用

学校生活の中では事前・事後指導や動きやすさからどうしても学年・学級での活動になりがちであるが、今回のような町内別のグループをディスカッションだけにとどめず、例えば学級単位で行う地域の奉仕活動を町内別に行うことも考えられる。

また、学期に一度くらい話す機会（本校では西中タイム）を設け、危険通学路のピックアップをさせたり、町内の諸行事に協力の要請があった場合など、何かあった時にはすぐに行動に移せるような環境を整えることにより、町内の生徒同士や大人の方々と連携が取れ、生徒の自主性も高まり、自発的・自治的な活動へと結びつくと考えている。

### ② いじめ撲滅にむけて

それでも、まだ、いじめ撲滅にはいたっていない。学級・部活動・町内とディスカッションは行ってきた。今後、行ってきた実践活動の結果として、いじめの実態がどうなっているのかを生徒自身が把握し、なぜ、いじめが起きているのか、行っている活動に改善点はないのかという生徒自らが自分たちの行動を評価し、次の行動へと移せる能力を身に付けさせていきたい。

## 評

「いじめ」の問題は、1980年代に学校における深刻な問題として表面化し、約20年経った今も各学校で、いじめをなくすための粘り強い取り組みが続けられている。

西中学校では“いじめのない学校をつくろう”と生徒会が中心となって4年前から「いじめ撲滅運動」に取り組んでおり、みんなで考え、具体的に動くことを繰り返すことによって、友人との信頼感が深まり、いじめに対する防衛力も確実に身につけてきている。

さらに16年度は、地域の方にも参加してもらい、地区別ディスカッションを実施するなど、地域の方々の思いや願いを把握させ、いじめ撲滅を目指して自分たちのできることを考えさせている。それは同時に、地域の教育力を生かしたサポート体制づくりのスタートとなる大変すばらしい実践である。